

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- ① スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- Ⅱ マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- Ⅲ スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- ④ 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- ⑤ スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 宮城県 】

学校名【 宮城県石巻西高等学校 】

1 実践テーマ	①・Ⅱ・Ⅲ・④・⑤（複数選択可）
2 実施対象者 (学年・人数)	<ul style="list-style-type: none"> ・保健体育：全学年生徒518名 ・地歴公民：2学年86名，3学年15名 ・国際理解講演会：1学年160名，2学年160名 ・オリンピック講演会：運動部生徒116名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 教科名 (保健体育・地歴公民) ② 行事名 (国際理解講演会) ③ その他 (オリンピック講演会) <p>(2) 地域における活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・パラリンピックの理念を知り，障害者理解を深め，共生することの大切さを感じる。 ・オリンピックからの講演を聞くことにより，スポーツを通して何を学び，それをいかに自己形成と結びつけていくかを考える。 ・国際協力の現状や世界の問題，課題について学ぶとともに，自己の役割を考え，どのような社会貢献ができるかを模索する機会とする。 ・国際的な視野を広げ，2020 オリンピック・パラリンピック東京大会への機運醸成につなげる。
5 取組内容	<p>① 教科における取り組み</p> <p>【保健体育】</p> <p>IPC(国際パラリンピック委員会)教材「I'm POSSIBLE」を視聴することで，パラリンピックの理念やパラリンピアン強い意志を知るとともに，各種目への理解を深めた。</p> <p>また，パラリンピック正式種目「ボッチャ」を実際に体験した。</p>



【地歴公民】

本校教諭が、2019年度 JICA 東北・JICA 二本松「教師海外研修【タンザニア】(7/28～8/7)」に研修者として派遣されたことをうけ、当該教諭による異文化理解を目的とした授業が実施された。2学年「地理」、3学年「地理探究」の授業においてタンザニアの歴史や



地形気候、産業、紛争などについて授業をすすめていき、10月18日(月)に開催された本校主催「まなびフォーラム」では、3年地理探究にて「日本とタンザニアのちがいを考える」と題した研究授業を実施した。

② 行事における取り組み

【国際理解講演会】

- ・6月25日(火)

テーマ「交流：日本とセネガル」

セネガルからの留学生を講師としてお招きし、セネガルでの生活の様子や、将来についての考え方等について講演いただいた。

- ・6月25日(火)

テーマ「貢献：海外青年協力隊としてキルギスで経験したこと」

元海外青年協力隊の方を講師としてお招きし、派遣先であるキルギスでの経験や、それが自分の人生にどのようなものをもたらしたか、キャリアプラン等について講演いただいた。

- ・1月21日(火)

テーマ「共生：海外青年協力隊としてグアテマラで経験したこと」

元海外青年協力隊の方を講師としてお招きし、派遣先であるグアテマラの教育に関する現状や、それに対し日本がどのような支援を行っているか等について講演いただいた。



③ その他の取り組み

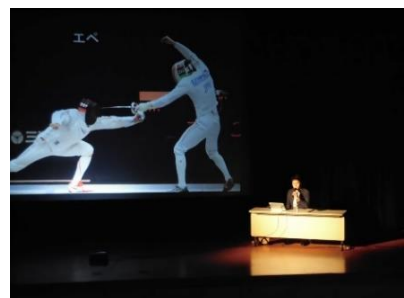
【オリンピック講演会】

10月22日(火・祝)

演題「good loser—負けの経験をどう生かしていくか—」

ロンドンオリンピックフェンシング銀メダリスト 千田健太氏

をお招きし講演いただいた。オリンピックでの貴重な経験や、失敗を次につなげることの重要性などさまざまなお話を聞くことができた。銀メダルを参加者全員に触らせていただくなど、なかなかできない経験もさせていただいた。



<p>6 主な成果</p>	<p>【保健体育】 パラリンピアンへの境遇や強い意志を知ることを通し、自分に置き換え、生き方や役割を考えることができた。また、ボッチャが単純な動作のみで行うことのできる競技であることから、運動の得意不得意にかかわらずどの生徒も積極的に参加することができた。回が進むにつれ、グループで互いに協力しながら作戦を練るなど競技の面白さまで実感している様子が見られた。</p> <p>【地歴公民】 タンザニアにおける課題についてグループワークを行い、答えのない問いに取り組む姿勢を育んだ。また、1つの指標だけではなく多方面から物事をとらえる視野をもつとともに、他の多様性に気づき受け入れる機会とした。</p> <p>【国際理解講演会】 国際協力の現状や世界の課題、協力隊員としての経験談、他国との考え方の違いを聞き、異文化理解につなげることができた。また、交流・共生・貢献の3つのテーマによる講演会から、自分が国際社会において何ができるかを考える機会となった。</p> <p>【オリンピック講演会】 失敗を次につなげることや、全力の試行錯誤が非常に重要であるということなど、オリンピックによる貴重な話を聞くことができた。講演後は多数の質問が出るなど、生徒が自分ごととして考え活かしていこうとする姿が見られた。</p>
<p>7実践において工夫した点(事業の特色)</p>	<p>本校は教育重点目標に「国際理解」が掲げられており、以前から「国際理解教育」に力を入れてきたため、上記のような活動をスムーズに取り入れることができた。また、東松島市が「SDGs未来都市」に認定されたことから、地域からの協力を得やすい環境にあったといえる。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>特になし</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>これらの活動は、来年度以降も継続していく予定である。国際的な視野を持ち、被災地校としての取り組みや本地域の復興状況を世界に発信していけるような生徒の育成を引き続きめざしていきたい。</p>